



(証券コード：7745 東証2部)

平成17年3月期 本決算説明会

平成17年5月19日

平成16年4月－平成17年3月

ご注意

本資料に含まれる予想に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後、日本及び世界の経済動向、新たな技術開発の進展により変動することがあります。従って、当社としては、その確実性を保証するものではありません。

Contents



1. 平成17年3月期の概況
2. DSP事業の業績計上変更について
3. DSP事業の業績について
4. 計測・計量機器事業 実績-1
5. 計測・計量機器事業 実績-2
6. 医療・健康機器事業 実績-1
7. 医療・健康機器事業 実績-2
8. 家庭用血圧計の生産状況
9. 財務分析(貸借対照表)
10. 財務分析(キャッシュフロー)
11. 設備投資・減価償却費の推移
12. 為替の影響について
13. 平成18年3月期通期見通し
14. 計測・計量機器事業 見通し-1
15. 計測・計量機器事業 見通し-2
16. DSP事業について-1
17. DSP事業について-2
18. DSP事業について-3
19. DSP事業について-4
20. 医療・健康機器事業 見通し-1
21. 医療・健康機器事業 見通し-2
22. 家庭用血圧計における中国進出
23. 中期経営計画
24. 補足資料

平成17年3月期の概況



(単位：百万円)

連結損益	16/3期 (実績)	17/3期		17/3期 (実績)	前期比	17/3期 予想	予想比	コメント
		上期	下期					
売上高	22,870	12,343	13,129	25,472	+11.4%	26,095	-2.4%	新規事業、家庭用血圧計を中心に増加（ほぼ予想通りの着地）
営業利益	1,828	1,105	1,574	2,678	+46.5%	2,623	+2.1%	新規事業の伸長、既存事業の原価低減により利益率の向上
経常利益	1,427	971	1,445	2,415	+69.2%	2,290	+5.5%	為替差益46百万円、支払利息の減少
税引き前利益	1,243	859	1,373	2,231	+79.5%	2,133	+4.6%	有価証券売却益58百万円、固定資産売却損▲67百万円、役員退職慰労金▲53百万円
当期純利益	750	546	894	1,440	+92.0%	1,338	+7.6%	
1株当たり利益（円）	41.59 (83.18)	29.72 (59.44)	42.55	72.27	+75.0%	69.21	+4.4%	分割（1：2）前に遡及して換算した数値を記載し、（ ）は分割前の数値。

(注) 17/3期予想は、11月9日付の「平成17年度3月期中間および通期の業績予想の修正について」にて発表した予想であります（以下同じ）。

1. 計上方法の変更の経緯

当社が新規事業として取り組んでいる計測・制御・シミュレーションシステム事業は、当社独自のDSP技術をベースにしておりますが、この技術は当社の既存事業（計測機器、計量機器、医療機器）にも応用が可能であります。今までは、この既存事業への応用実績が少なかったのですが、今期からその実績が急速に立ち上がり始めボリュームが大きくなってきた事より、この計上方法につきまして見直しを行う事といたしました。すなわち、

＜従来＞ 応用製品も含め全て計測・制御・シミュレーションシステム事業に計上

＜今後＞ 応用製品はベースとなる既存事業に計上

2. 今期及び来期以降の計上について

(1) 17年3月期

見通しにおいては既存事業への応用も含めたDSP事業全体で計上してはいたしましたが、実績においては計測・制御・シミュレーションシステム事業（新規事業）のみを計上します。しかし、比較のためDSP事業全体の業績も別表（3ページ）にて示します。

(2) 18年3月期以降

基本的には計測・制御・シミュレーションシステム事業（新規事業）のみで見通し及び実績を計上いたしますが、予算において一部既存事業の応用製品が入っている事から、今後修正していきます。

DSP事業の業績について



(単位：百万円)

	用途種別	15/3期 (実績)		16/3期 (実績)		17/3期 (実績)		
		上期	下期	上期	下期	上期	下期	
新規事業 (従来計上していた分野)	自動車関連	289	437	486	611	436	858	
	試験機関連	82	71	103	83	119	388	
	その他	78	114	68	120	113	5	
	小計	450	623	657	814	668	1,252	
既存事業への DSP技術応用	特殊試験機関連					18	182	
	計量制御関連					36	60	
	医療機器							
	小計					55	241	
合計			450	623	657	814	723	1,493
売上合計 (通期)			1,073		1,471		2,216	

今期は、DSP技術の既存事業への応用製品が急速に立ち上がり、セグメント全体の売上に貢献しました。また、DSP事業本体においては、エンジンベンチの完成、新プラットフォーム(AD5440、AD5435)のリリースによって、自動車業界等での当社の技術優位性の認知度が高まり、様々な案件が一気に進展しました。その結果、大口受注(17~18ページ参照)が期末に決定し、今後本格的な成長期を迎える事が確実となってきました。

計測・計量機器事業 実績－1



(単位：百万円)

セグメント		16/3期 (実績)	17/3期 (実績)	前期比	17/3期 予想	予想比
計測・計量機器事業	売上高	14,394	15,748	+9.4%	16,334	-3.6%
	売上原価	8,324	8,962	+7.7%	9,455	-5.2%
	販管費	4,538	4,920	+8.4%	4,985	-1.3%
	営業利益	1,531	1,867	+21.9%	1,894	-1.4%

1. 売上

- ・新規事業は、DSP事業が予算未達成だが、期末に大型受注を取る等、今後に向けた事業展開が加速
- ・既存事業では、DSP技術の既存事業への応用製品が今期から急速に立ち上がる
→前期比9.4%の増加

2. 営業利益

- ・新規事業（DSP関連等）が進展した事より利益率が向上
→前期比21.9%の増加

計測・計量機器事業 実績－2



(単位：百万円)

製 品 種 別	16/3期 (実績)	17/3期		17/3期 (実績)	前期比	17/3期 予想	予想比
		上期	下期				
計 測 機 器	1,718	750	927	1,677	-2.4%	1,659	+1.1%
計 量 機 器	9,068	4,859	4,890	9,749	+7.5%	9,836	-0.9%
計測・制御・シミュレ ーションシステム(新規)	1,472	669	1,251	1,920	+30.4%	2,386	-19.5%
電 子 ビ ー ム 関 連 ユ ニ ッ ト	2,136	1,233	1,169	2,402	+12.5%	2,453	-2.1%
売 上 合 計	14,394	7,510	8,238	15,748	+9.4%	16,334	-3.6%

計測機器

: ほぼ予想通りの実績

計量機器

: 水分計、ロードセル、電子天びんをはじめ全体的に堅調に推移

DSP(新規事業)

: 目標は未達成だが、既存事業におけるDSP応用も含めると約22億円(3ページ参照)となり、事業全体にDSP技術の効果が発現

電子ビーム関連ユニット: ほぼ予定通りの着地

医療・健康機器事業 実績－1



(単位：百万円)

セグメント		16/3期 (実績)	17/3期 (実績)	前期比	17/3期 予想	予想比
医療・健康機器事業	売上高	8,477	9,724	+14.7%	9,761	-0.4%
	売上原価	5,200	5,523	+6.2%	5,848	-5.6%
	販管費	2,230	2,480	+11.2%	2,358	+5.2%
	営業利益	1,046	1,721	+64.5%	1,555	+10.7%

1. 売上

- ・ 全体的に好調で、特に家庭用血圧計がロシアを中心に売上を伸ばした
→前期比14.7%の増加

2. 営業利益

- ・ 家庭用血圧計においては、売上増加による量産効果および関係会社への生産移行が更に進んだ結果、原価低減を実現
→前期比64.5%の増加

医療・健康機器事業 実績－2



(単位：百万円)

製品種別	16/3期 (実績)	17/3期		前期比	17/3期 予想	予想比
		上期	下期			
医療機器	1,526	774	908	+10.2%	1,626	+3.4%
健康機器	6,951	4,059	3,983	+15.7%	8,135	-1.1%
売上合計	8,477	4,833	4,891	+14.7%	9,761	-0.4%

医療機器：全自動血圧計、メディカル計量器が依然好調
新シリーズを投入したバイタルセンサも堅調

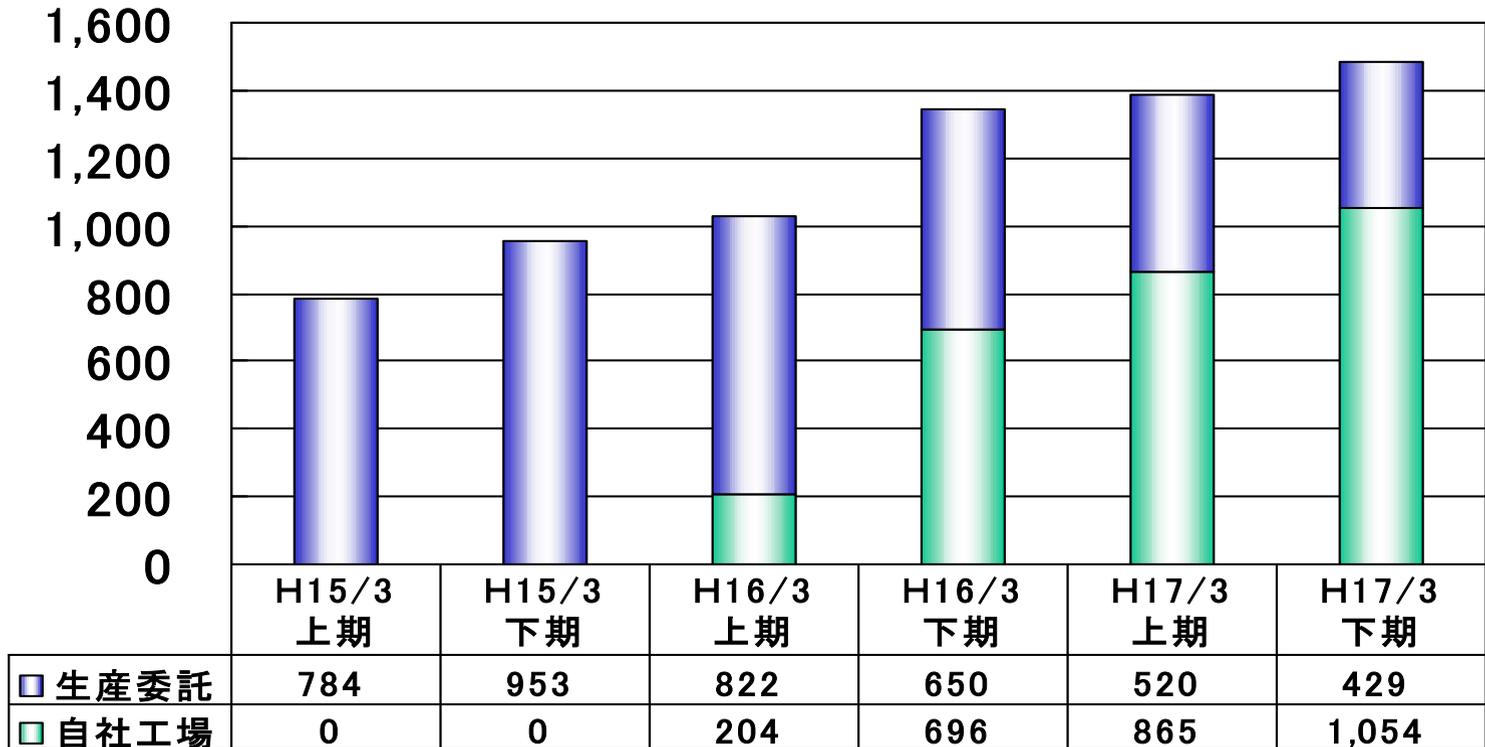
健康機器：家庭用血圧計がロシア市場を中心に好調

家庭用血圧計の生産状況



中国における家庭用血圧計の生産状況

単位：千台



財務分析（貸借対照表）



■ 貸借対照表分析

（単位：百万円）

連結貸借対照表	16/9期 (実績)	17/3期 (実績)	前期比	コ メ ン ト
流動資産合計	23,401	23,263	-0.6%	現金・預金△675、受取手形・ 売掛金+632、棚卸資産△333
固定資産合計	7,542	9,402	+24.7%	有形固定資産+745、無形固定 資産+58、投資その他+1,056
資産合計	30,944	32,665	+5.6%	
負債合計	20,090	20,215	+0.6%	短期借入金△1,004、未払法人 税等+323、前受金その他+547
少数株主持分	207	233	+12.6%	
資本合計	10,647	12,217	+14.7%	利益剰余金+843、有価証券評 価差額金+736
負債及び資本合計	30,944	32,665	+5.6%	

財務分析（キャッシュフロー）



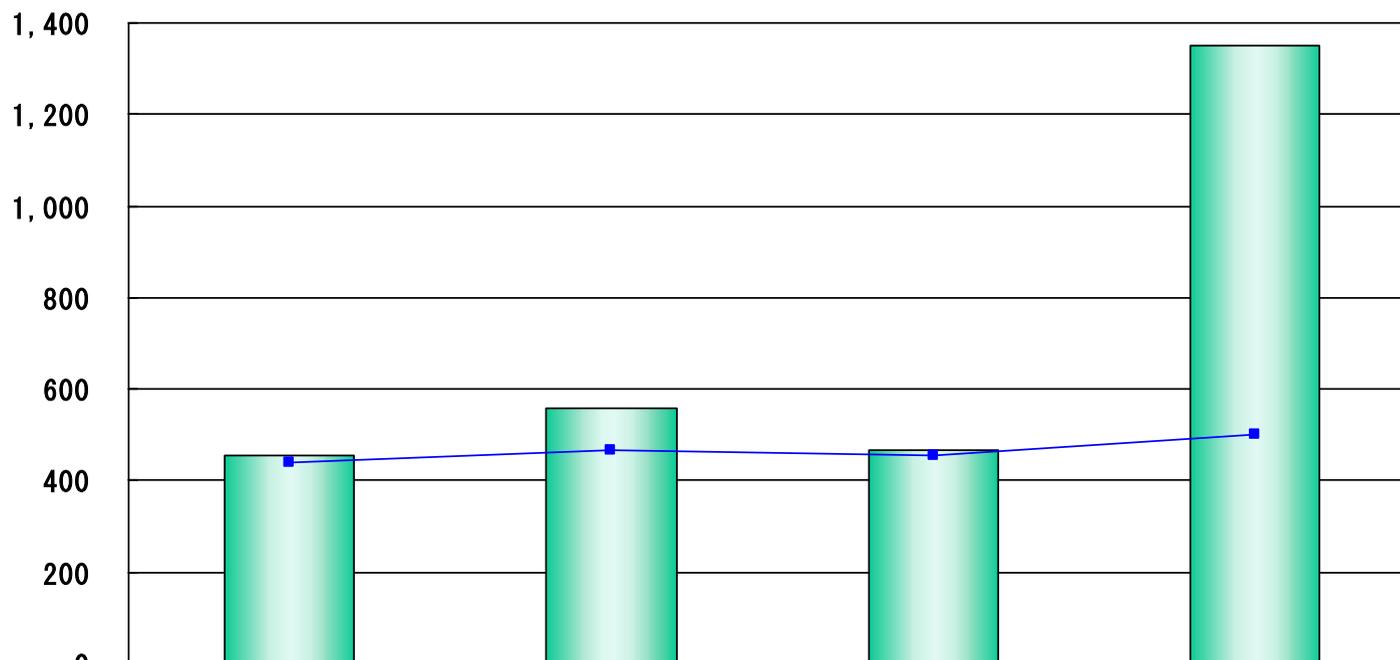
■ キャッシュフロー分析

（単位：百万円）

連結キャッシュフロー	16/3期 (実績)	17/3期 (実績)	コ メ ン ト
営業活動によるCF	299	2,552	税前当期純利益2,231、原価償却費836、棚卸資産減598、売上債権増△1,042、仕入債務減△509、法人税等支払△357
投資活動によるCF	△978	△2,295	有形固定資産の取得△1,350、無形固定資産の取得△425、関係会社株式の取得△423
財務活動によるCF	606	1,209	株式の発行2,550、長期借入金の減少△1,242、配当金支払△95
現金及び現金同等物の増加額	△130	1,543	
現金及び現金同等物の期末残高	2,096	3,639	

設備投資・減価償却費の推移

(単位：百万円)



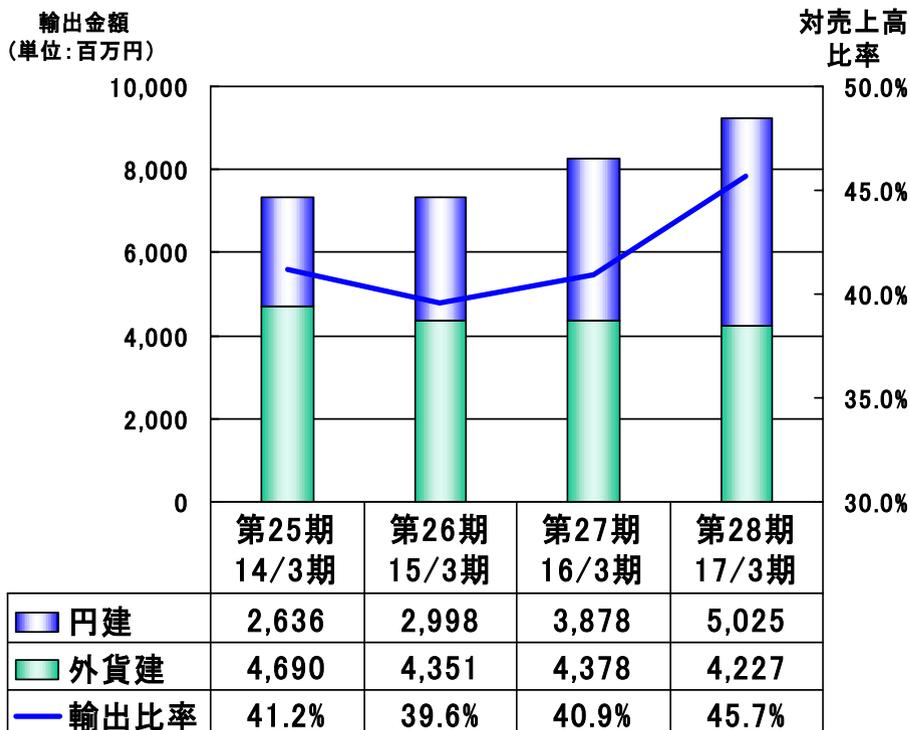
■ 設備投資	454	558	466	1,350
—■ 減価償却費	440	467	456	502

今期の設備投資は、開発技術センターにおける社屋等の建設に537百万円、関係会社における土地の取得260百万円を主因に大幅増加

為替の影響について



輸出の状況



17年3月期の外貨建て取引の状況

通貨 (千単位)

区分		通貨		
		ドル	ユーロ	オーストラリア ドル
フロー	販 売	35,498	6,238	2,833
	仕 入	39,636	31	2,883
	差 額	-4,139	6,207	-50
ストック	債 権	12,619	1,191	432
	債 務	10,012	0	244
	差 額	2,607	1,191	188

※A & D単体での状況です

平成18年3月期の見通し



(単位：百万円)

連結損益	17/3期 (実績)	18/3期 (予想)		前期比	コメント	
		上期	下期			
売上高	25,472	13,582	16,443	30,025	+17.9%	新規事業を中心に売上増加を図る
売上原価	14,485	7,842	9,870	17,712	+22.3%	既存事業における価格競争の激化等を織り込む
販売費及び一般管理費	8,309	4,517	4,453	8,970	+8.0%	予算管理の徹底
営業利益	2,678	1,222	2,121	3,343	+24.8%	
経常利益	2,415	1,039	1,902	2,941	+21.8%	
当期純利益	1,440	674	1,165	1,839	+27.7%	
1株当たり利益 (円)	72.27			88.20	+15.93%	

計測・計量機器事業 見通しー1



(単位：百万円)

セグメント		17/3期 (実績)	18/3期		前期比	
			上期	下期		
計測・計量機器事業	売上高	15,748	8,390	10,676	19,066	+21.1%
	売上原価	8,962	4,894	6,452	11,346	+26.6%
	販管費	4,920	2,646	2,622	5,268	+7.1%
	営業利益	1,867	851	1,602	2,452	+31.3%

1. 売上

DSP事業において、国内自動車メーカーにおいて当社の技術力が認知された事より、自動車市場での売上を一気に伸ばす

→前期比21.1%の増加を見込む

2. 売上原価

- ・DSP事業において、防衛庁の大型受注（17ページ参照）については初めての受注内容で仕様も複雑な事から、粗利益率を低めに設定。

- ・既存事業については、海外を中心に価格競争が激化している事を考慮

→前期比26.6%の増加を見込む

3. 営業利益

- ・販管費の抑制に努め、収益率の向上を図る

計測・計量機器事業 見通し-2



(単位：百万円)

製 品 種 別	17/3期 (実績)	18/3期		前 期 比
		上期予想	下期予想	
計 測 機 器	1,677	864	1,083	1,947 +16.1%
計 量 機 器	9,749	4,921	5,430	10,351 +6.2%
計測・制御・シミュレーションシステム(DSP)	1,920 (2,216)	1,349	2,845	4,194 (+89.3%)
電子ビーム関連ユニット	2,402	1,256	1,318	2,574 +7.2%
売 上 合 計	15,748	8,390	10,676	19,066 +21.1%

計測機器

：新素材市場等の開拓を進める

計量機器

：一般消費者向け製品、新市場（粘度計、水分計）の販売ルートの確立

DSP

：国内は新製品の販売加速、北米展開も開始

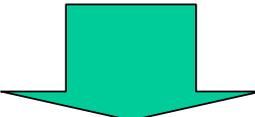
(17/3カッコ書きの数字はDSP事業全体での業績)

電子ビーム関連ユニット

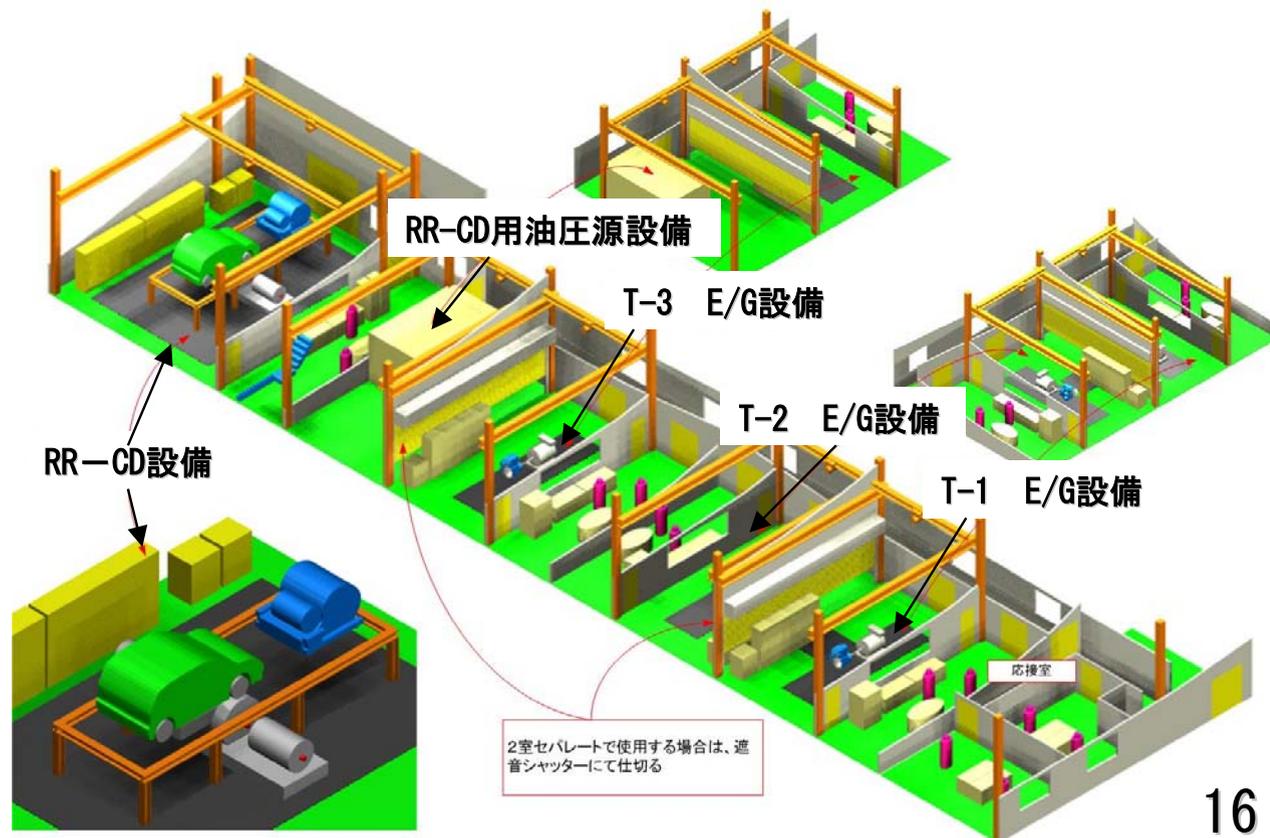
：更なる高性能化の追求

エンジン実験棟の増設

- **目的** 自動車メーカーとエンジン開発ツールを共同開発するために、エンジンベンチ3台増設
- **利用方法** 自動車メーカーがエンジンを当社施設に持ち込み、当社はベンチ及び開発ツールを提供



現在3社との共同
開発計画が進行中



強度試験装置

■ 受注内容

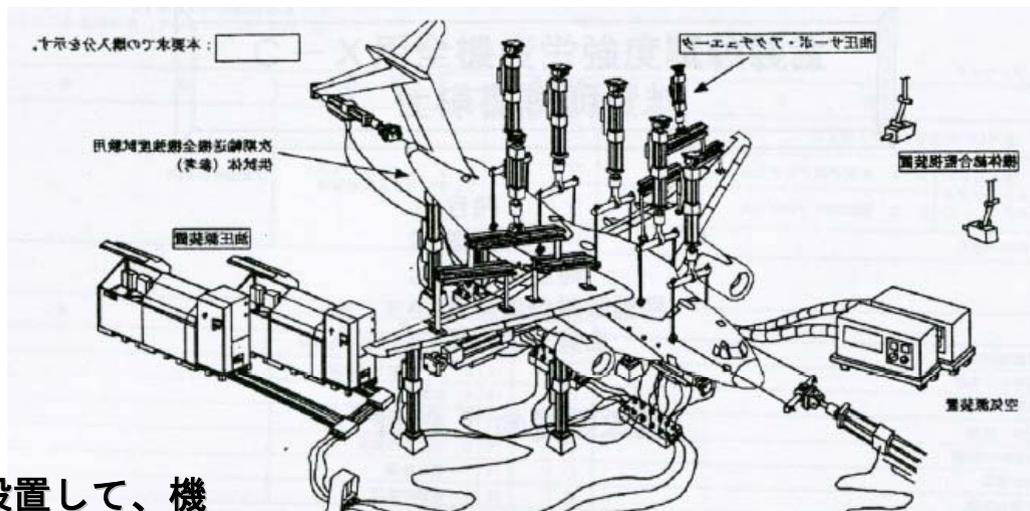
- ・ 受注先 : 防衛庁
- ・ 受注金額 : 約15億円
- ・ 受注時期 : 平成17年3月
- ・ 納入時期 : 平成18年3月

■ 装置の概要

機体の周りの加振器を270台設置して、機体が飛行中に受ける力を再現して繰り返し加える事で、機体の疲労強度の試験を行う

■ 受注の経緯

防衛庁における過去5回の発注は、いずれもアメリカMTSシステム社が受注していたが、入札の結果、国産メーカーで始めて受注を獲得



風洞実験設備

■ 製品特徴

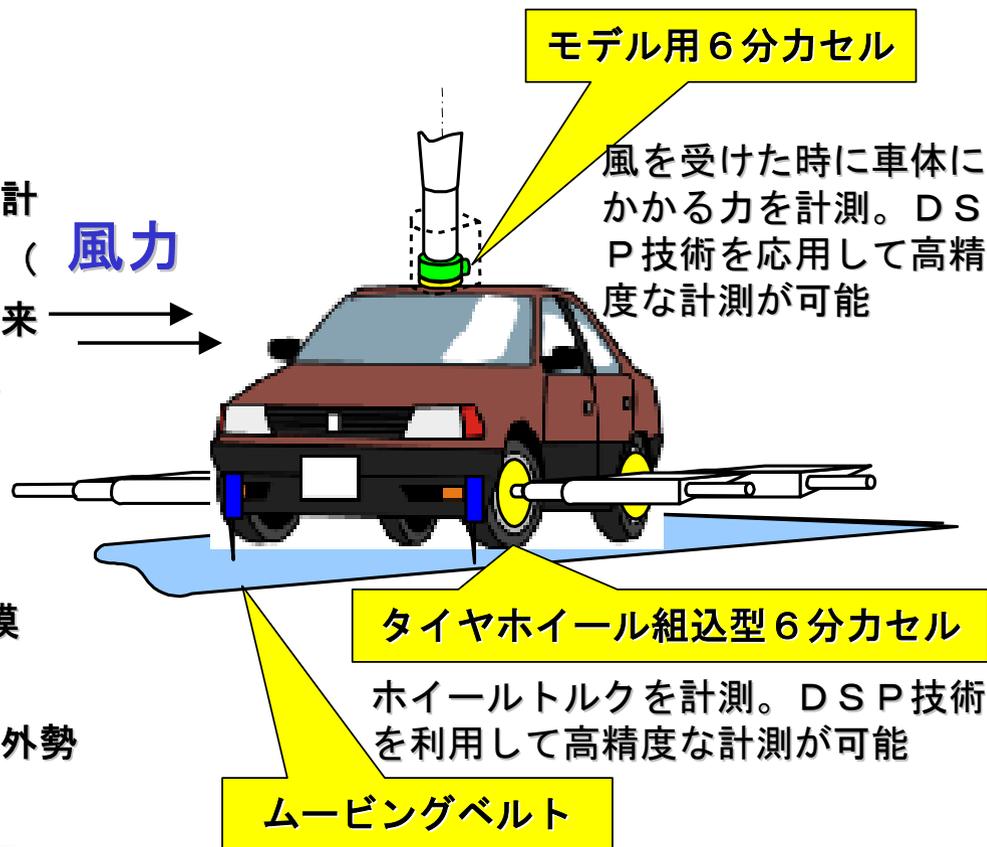
- 車体に風力を加えた際にかかる力を計測する設備で、当社は力の計測部分（風力風洞天秤）にDSP技術を応用。従来よりも高精度でかつ低コストを実現

■ マーケット環境

- 風洞実験設備は国内に多数存在し、今後当社の提供する新しいシステムへのリニューアルで1台数億円の規模
- 国内メーカーでは競合する技術を持つ会社は無く、今後のライバルは海外勢

■ 受注状況

- 大手自動車メーカーで受注（約5億円で来年7月納入）
- 他メーカーにおいても受注、引き合い有り



ベルトを回してタイヤを回転させて、車両走行時と同様の気流環境を再現。現在、DSP技術を応用した高精度な制御技術を開発中

アメリカ現地法人の設立

■ 設立目的

- ・ 国内では当社の認知度が確立し受注が加速する状況の中、今後本格的に世界進出を実現するために、アメリカ大手自動車メーカーを主なターゲットにした販売拠点として売り込みを図る
- ・ OPAL及びSwRI（補足資料参照）と開発・販売において関係を深める
- ・ 自動車メーカーの最先端技術の情報収集と市場ニーズの把握

■ 会社概要

- ・ 会社名 A&D Technology Inc.
- ・ 場 所 アメリカ合衆国ミシガン州アナーバー市
→世界の大手自動車メーカーの研究開発拠点がある場所で、最先端技術の情報収集と市場ニーズの把握に最適
- ・ 資本金 500千米ドル（当社100%出資）
- ・ 設 立 平成17年5月

医療・健康機器事業 見通しー1



(単位：百万円)

セグメント	17/3期 (実績)	18/3期		前期比		
		上期	下期			
医療・健康機器事業	売上高	9,724	5,192	5,768	10,959	+12.7%
	売上原価	5,523	2,948	3,419	6,367	+15.3%
	販管費	2,480	1,395	1,380	2,776	+11.9%
	営業利益	1,721	848	969	1,817	+5.6%

1. 売上

- ・新製品の投入や新たなマーケットへの進出を図る
→前期比12.7%の増加を見込む

2. 売上原価

- ・家庭用血圧計においては、関係会社への生産移行がほぼ完了した中、価格競争への対応のための販売価格低下の影響を織り込む
→前期比15.3%の増加を見込む

医療・健康機器事業 見通し-2



(単位：百万円)

製品種別	17/3期 (実績)	18/3期		前期比
		上期予想	下期予想	
医療機器	1,681	919	1,171	+24.3%
健康機器	8,043	4,273	4,597	+10.3%
売上合計	9,724	5,192	5,768	+12.7%

医療機器：動脈硬化測定器を上市し、販売ルートを立ち上げて流通を確立

健康機器：家庭用血圧計において、中国市場の開拓を開始

中国生産現地法人を足がかりに、巨大市場である中国での販売を開始

■ 販売対象とするマーケット

(1) チェーン系薬局

- ・販売開始当初最も力を入れる市場

(2) 百貨店

- ・平成18年から販売開始予定。ブランドイメージの確立を目指す

(3) 団体購買

- ・組織単位での大量受注、及び知名度アップを目指す

■ 販売計画

(1) 平成17年6月～平成17年12月

- ・深圳でビジネスモデルの構築を目指す
- ・薬局／団体購買により売上目標3,400台

(2) 平成18年1月～平成18年12月

- ・広州に進出して、広東省全体で事業の立ち上げ
- ・百貨店に参入を開始、売上目標は47,000台で黒字化を目指す

(3) 平成19年1月～平成19年12月

- ・上海に進出、売上目標は100,000台

中期経営計画



- | | | | |
|---|----------------------|----|------------------|
| 1 | 中期経営計画の基本方針 | 10 | 中期経営計画（セグメント別収益） |
| 2 | DSP事業のビジネスモデルについて | 11 | 中期経営計画（損益の概況）－1 |
| 3 | DSP事業について－1 | 12 | 中期経営計画（損益の概況）－2 |
| 4 | DSP事業について－2 | | |
| 5 | 電子ビーム関連ユニットについて | | |
| 6 | 計測機器・計量機器について | | |
| 7 | 中期経営計画（計測・計量機器事業売上高） | | |
| 8 | 医療機器・健康機器について | | |
| 9 | 中期経営計画（医療・健康機器事業売上高） | | |

①急速に進展する技術革新に対応して、売上増加と収益性を向上

優位技術であるDSPシステムはあらゆる産業における計測・制御・解析・シミュレーションのプラットフォームであり、様々な分野への積極的な応用展開を図る

② グローバリゼーションへの対応を図り競争力を強化

○ 海外生産

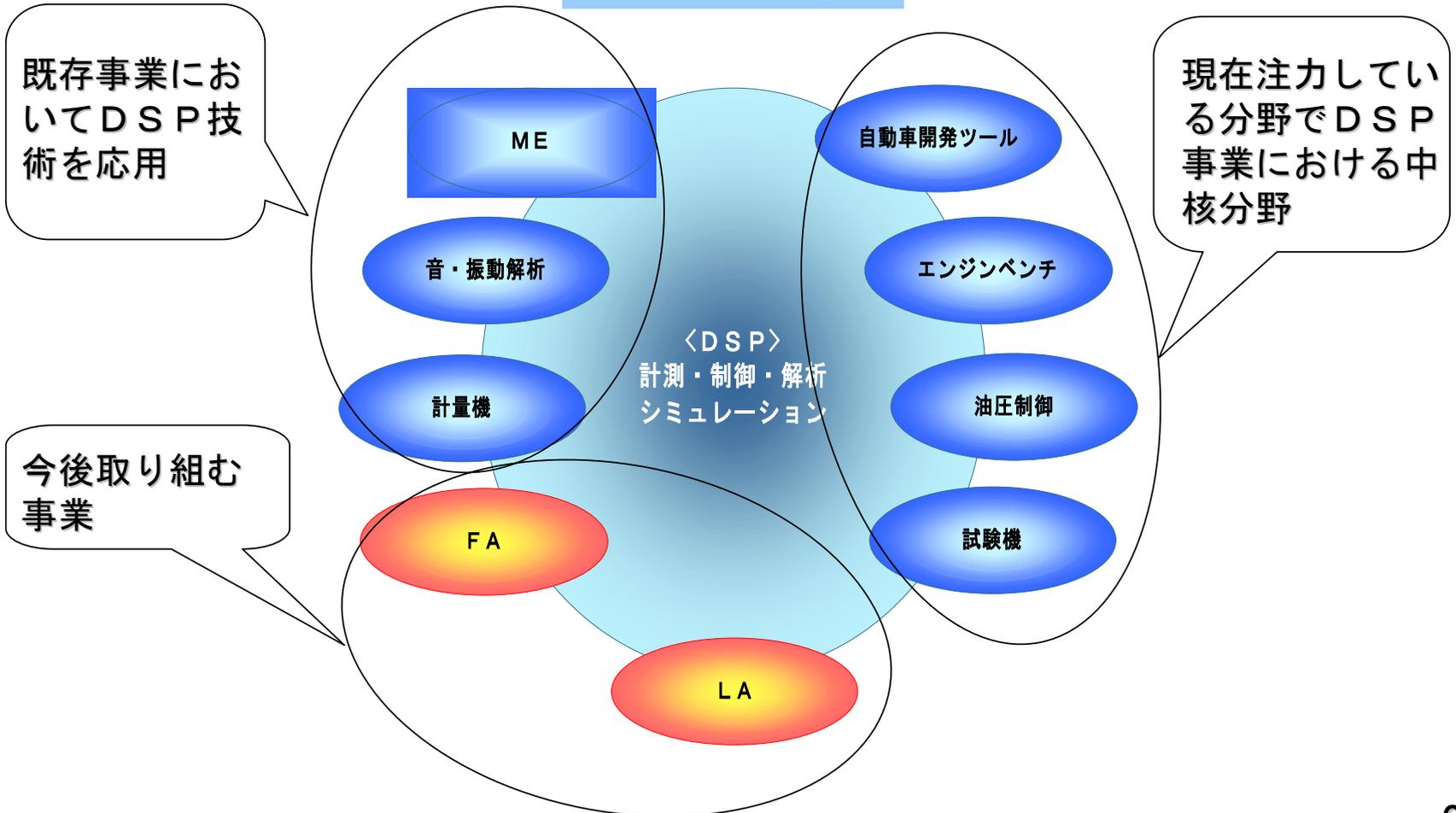
最適生産体制構築による価格競争力強化を図る

○ 海外販売

チャレンジ精神をもってDSP製品の海外販売体制を構築し、DSP製品の海外普及を図る

DSP事業のビジネスモデルについて

ビジネスモデルの概念図



1. 開発戦略

- ①製品ラインナップを更に広げて、顧客の幅広い要求に応える
- ②分力トルク計、風洞実験設備等の当社でしか実現できない事業分野を拡大
- ③シャーシダイナモベンチ（次ページ参照）等の開発を進めて、世界に通用するツールの開発を推進
- ④OPALと次世代プラットフォームの共同開発、SwRI（補足資料参照）との関係も更に強化

2. 営業戦略

- ①国内マーケット
 - ・自動車市場の更なる開拓を目指す
 - ・航空、油圧制御関連、ロボット等の市場開拓を進める
- ②海外マーケット
 - ・北米展開を軌道に乗せて、自動車ビッグ3を中心に売上増加を目指す
 - ・欧州展開のインフラを整える

シャーシダイナモの開発

■ 設備の特徴

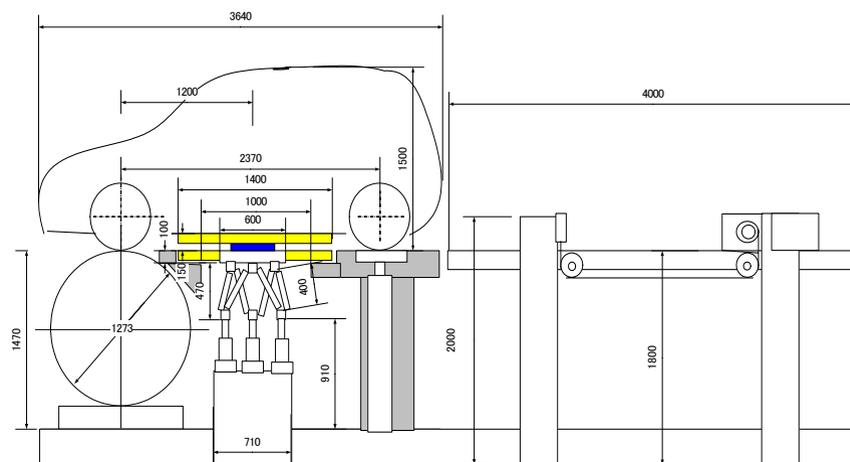
従来は排ガス、燃費のみの試験装置であったが、当社DSP技術を使用する事で、

- ・エンジン発生トルク、ホイールトルク等が高精度に計測可能
- ・高速かつ高精度な制御が可能で、実走環境の正確な再現が可能

なお、この設備と当社独自のホイールトルク計測技術によって、コンピュータ上に作成した自動車モデルの正確な検証が可能となり、エンジン・ミッション・サスペンション・タイヤ等の統合的な性能試験を実現する事が出来る（従来にない全く新しい発想）

■ マーケット環境

- ・設備は各自動車メーカーで百セット単位で所有しているが、競合メーカーには当社の持つ技術は無い。
- ・自動車開発プロセスの高度化が進み設備の更新が進んだ場合、大きなマーケットを手にする事ができる



1. 電子銃

- ・電源の小型化、大面積／大電流の電子銃の開発を進める

2. 偏向回路

- ・更なる高速／高精度化を図り、ユーザーのニーズに応える
→ハイブリッド回路、箔抵抗技術の確立



半導体装置メーカーの動向を注視し、長期的なキーコンポーネント事業の確立を目指す

3. その他

- ・電子ビーム・イオンビームを使ったオリジナル測定装置または微細加工装置の開発

1. 計測機器

- ①新規市場向けのDSP応用製品の開発、および製品の規格化
- ②海外調達の推進等によるコストダウンを実施し、生産関係会社を含めた効率的な生産体制を構築

2. 計量機器

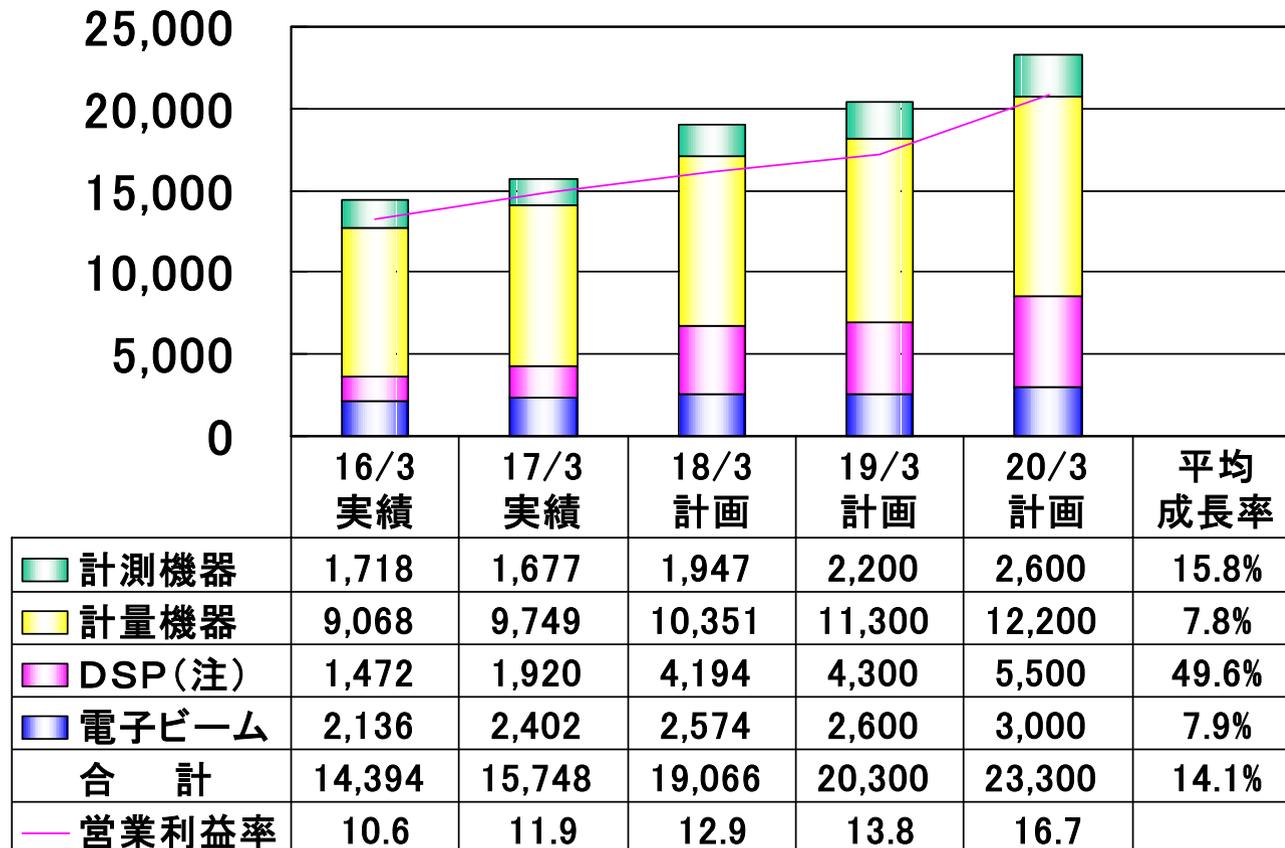
- ①DSP技術を応用して、計量分野から新しいマーケットを開拓
- ②ローコストセンサーの技術開発を進め、低価格商品を市場に投入
- ③秤商品に続いて、ロードセルの生産を中国で開始（価格競争力を強化）

中期経営計画（計測・計量機器事業売上高）



単位：百万円

単位：%



(注) 17/3期の既存事業への応用を含めたDSP事業全体の売上高は2,216百万円であり、この場合の平均成長率は39.9%となります。

1. 医療機器

- ・ 家庭内ネットワーク、在宅医療、病院ネットワークの検討と製品化
（ネットワーク化への対応）
 - ・ DSP技術の応用を推進
- 動脈硬化測定器において商品展開を拡大
- 心電解析装置の開発を目指す

2. 健康機器

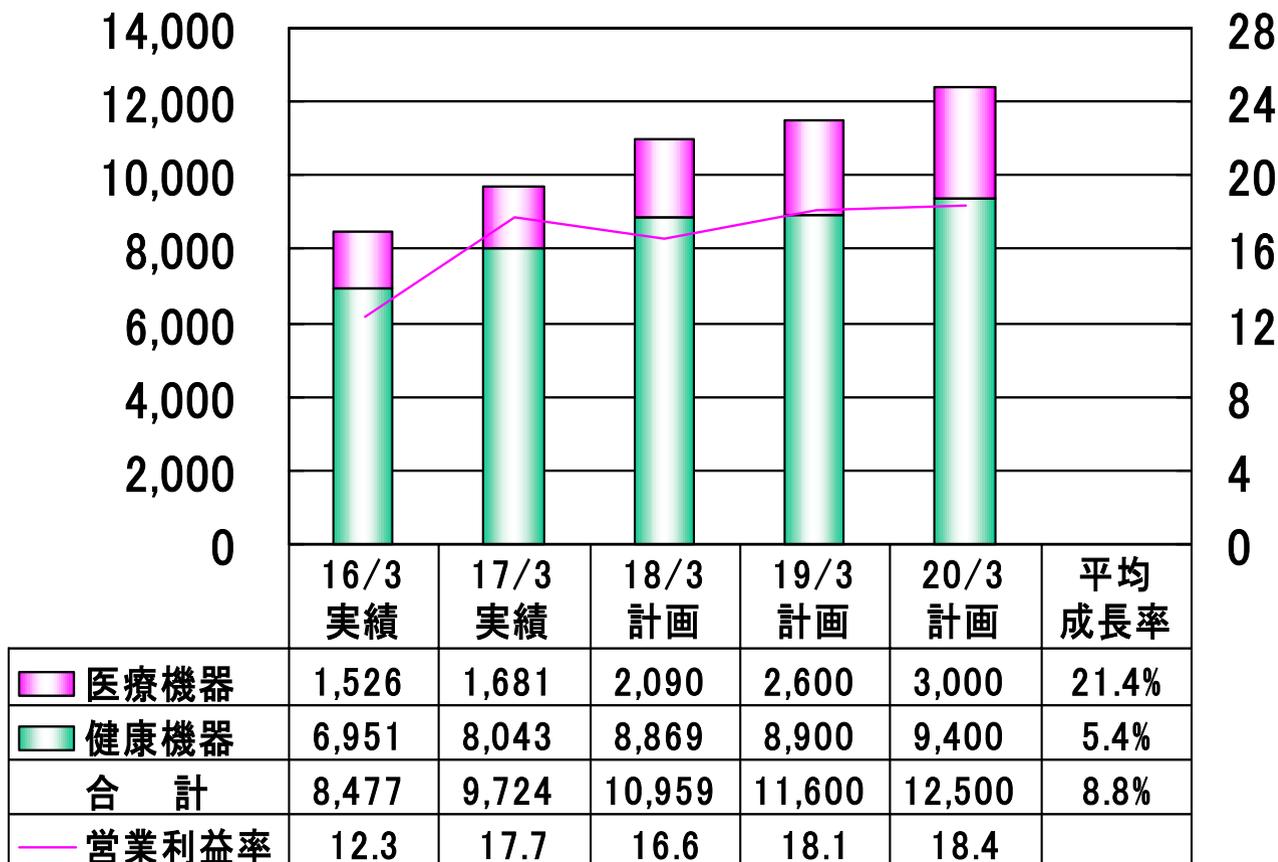
- ・ 家庭用血圧計
- より一層のコスト削減を目指し、部品の現地調達の推進と生産体制の効率化を実現
- ・ 家庭向け体重計
- 体脂肪計等の機能拡張と価格競争力のある流通製品のラインナップを図る

中期経営計画（医療・健康機器事業売上高）



単位：百万円

単位：%



中期経営計画（セグメント別収益）



（単位：百万円）

セグメント		17/3期 (実績)	18/3期 (計画)	19/3期 (計画)	20/3期 (計画)	平均 成長率
計測・計量機器 事業	売上高	15,748	19,066	20,300	23,300	+14.1%
	売上原価	8,962	11,346	12,000	13,500	+15.0%
	販管費	4,920	5,268	5,500	5,800	+5.6%
	営業利益	1,867	2,452	2,800	3,900	+28.3%
医療・健康機器 事業	売上高	9,724	10,959	11,600	12,500	+8.8%
	売上原価	5,523	6,367	6,500	7,000	+8.4%
	販管費	2,480	2,776	2,900	3,100	+7.8%
	営業利益	1,721	1,817	2,100	2,300	+10.2%
配賦不能費用		910	927	1,000	1,000	+3.2%
営業利益計		2,678	3,343	4,000	5,200	+24.8%

中期経営計画（損益の概況）－ 1



(単位：百万円)

連結損益	16/3期 (実績)	17/3期 (実績)	18/3期 (計画)	19/3期 (計画)	20/3期 (計画)	平均 成長率
売上高	22,870	25,472	30,025	31,900	35,700	+12.0%
営業利益	1,828	2,678	3,343	4,000	5,200	+24.8%
経常利益	1,427	2,415	2,941	3,600	4,800	+25.8%
当期純利益	750	1,440	1,839	2,200	3,000	+27.9%

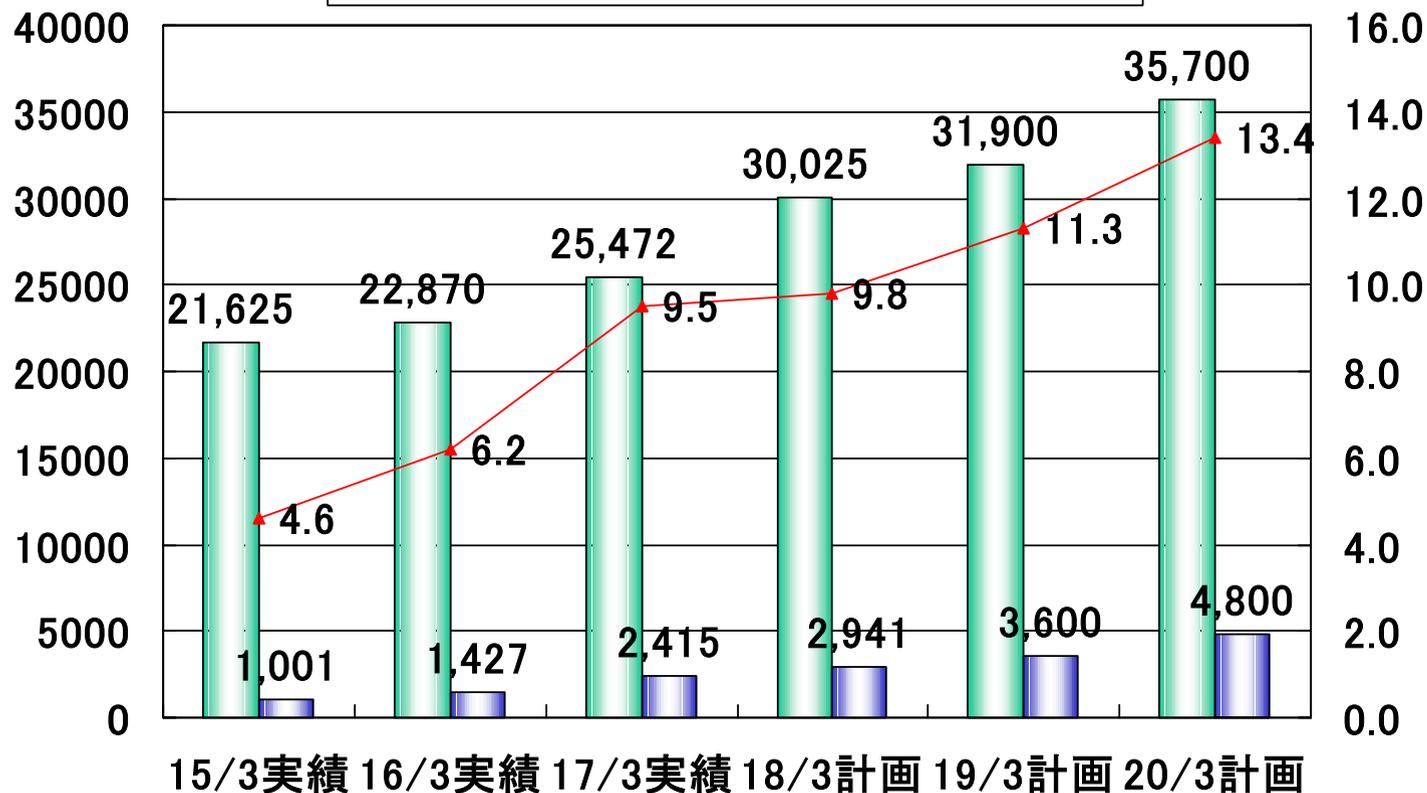
中期経営計画（損益の概況）－ 2



（単位：百万円）

■ 売上高 ■ 経常利益 ▲ 経常利益率

（単位：％）



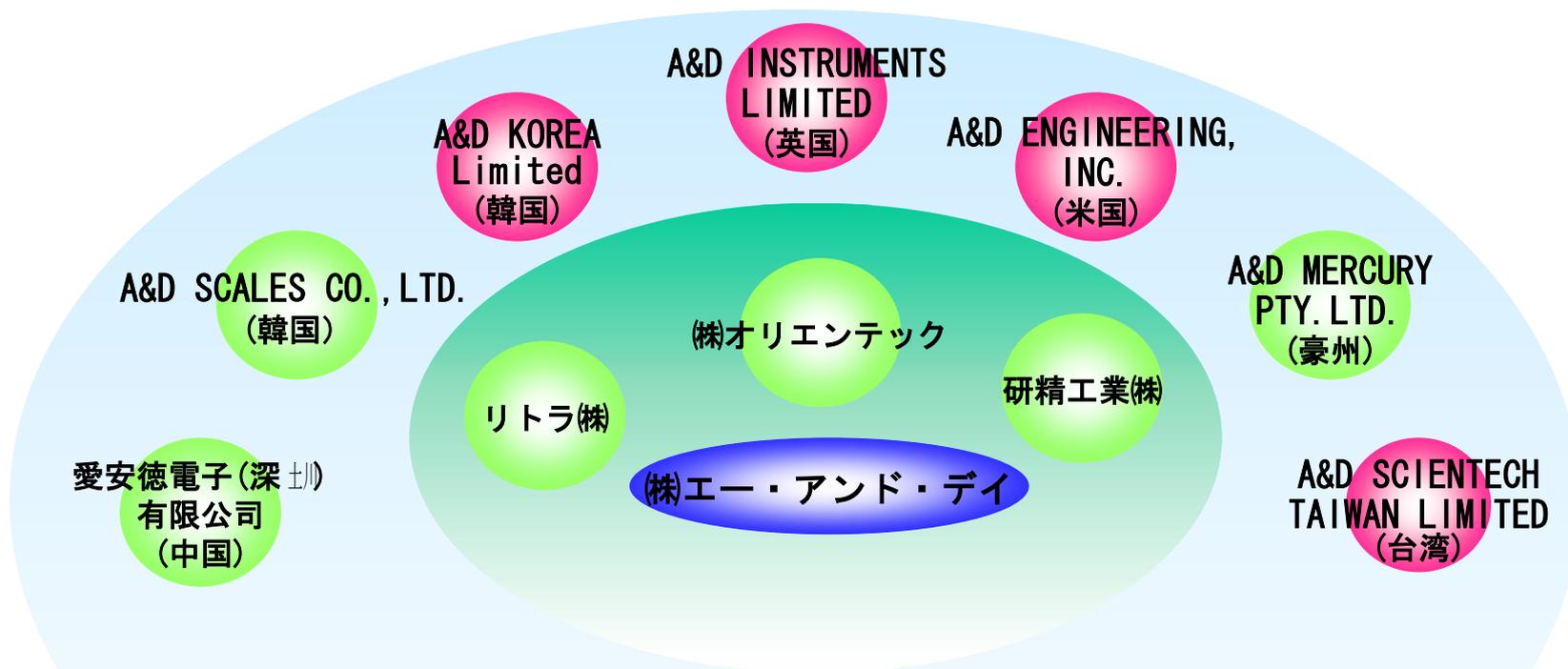
AND
株式会社 **エー・アンド・ティ**

補 足 資 料



- 1 グループの概況
- 2 SwRI / OPALについて
- 3 開発の状況
- 4 電子天びんの国内市場シェア

グループの概要



A & Dは開発および販売を中心に活動
生産主体は国内外関係会社
海外販売は関係会社経由と直販を併用

-  生産・開発関係会社
-  販売関係会社
-  その他関係会社

■ SwRI (Southwest Research Institute)

(1) 組織概要

- ・ 政府や企業からの受託研究を行っているアメリカの非営利団体（職員2800名）
- ・ 研究範囲は自動車、航空・宇宙、医療等、広範囲にわたる（11 Division）
- ・ 欧米・日本の自動車メーカーとのパイプもあり、この業界では非常に有名

(2) 提携の経緯

- ・ SwRI→当社の技術水準を高く評価しており、RAPTORの拡販にも期待
- ・ 当社→SwRIの自動車メーカーとの太いパイプを世界戦略に生かせる

■ OPAL (Opal-RT Technologies, Inc)

(1) 会社概要

- ・ カナダのDSPベンダーで、JMAABのHILSワーキングのメンバー
- ・ ユーザーはGM/デルファイ（米国）及びトヨタ

(2) 提携の経緯

- ・ OPAL→GMがグローバル対応を求めており、当社と手を組む事が得策と判断
- ・ 当社→双方の得意分野を生かせ、世界進出の足掛りとなると判断

(3) 当社の資本参加について

双方の関係強化のために約600,000カナダ\$（日本円で50百万円強で全株式の7.7%）を出資

開発の状況



社内資源の多くを開発に投入し、
各事業分野で継続して開発を実施。

(平成17年3月末/A & D単体)

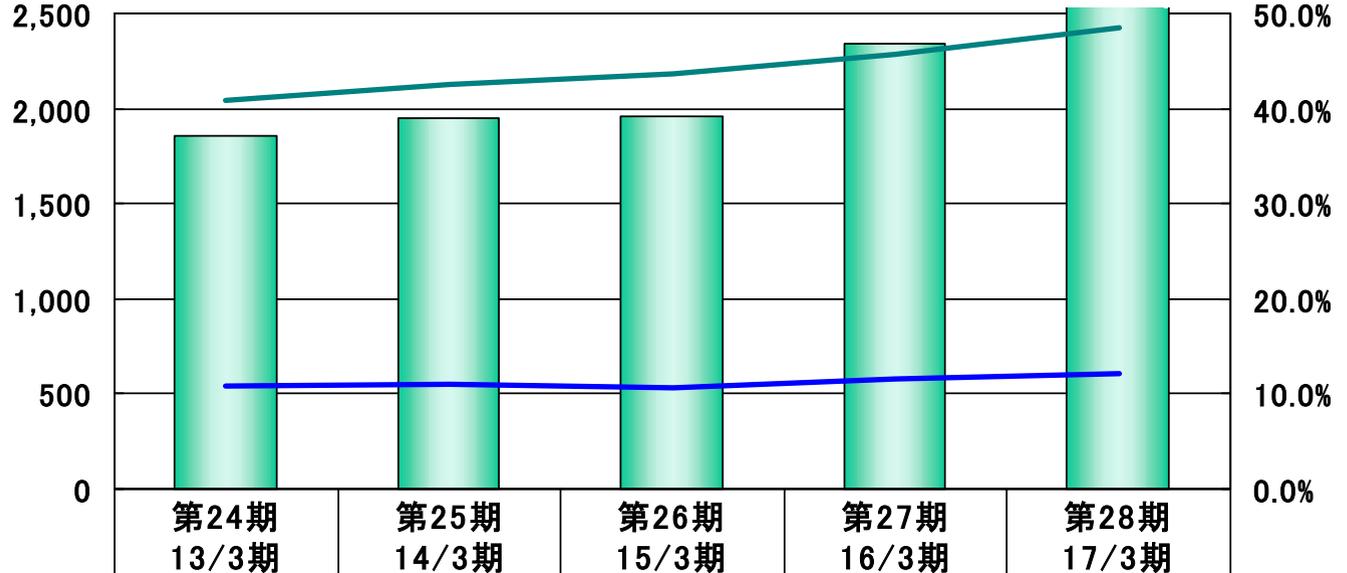
在来事業 162名 (60.2%)

新規事業 107名 (39.8%)

合計 269名 比率

研究開発費
(単位:百万円)

※A & D単
体での状況

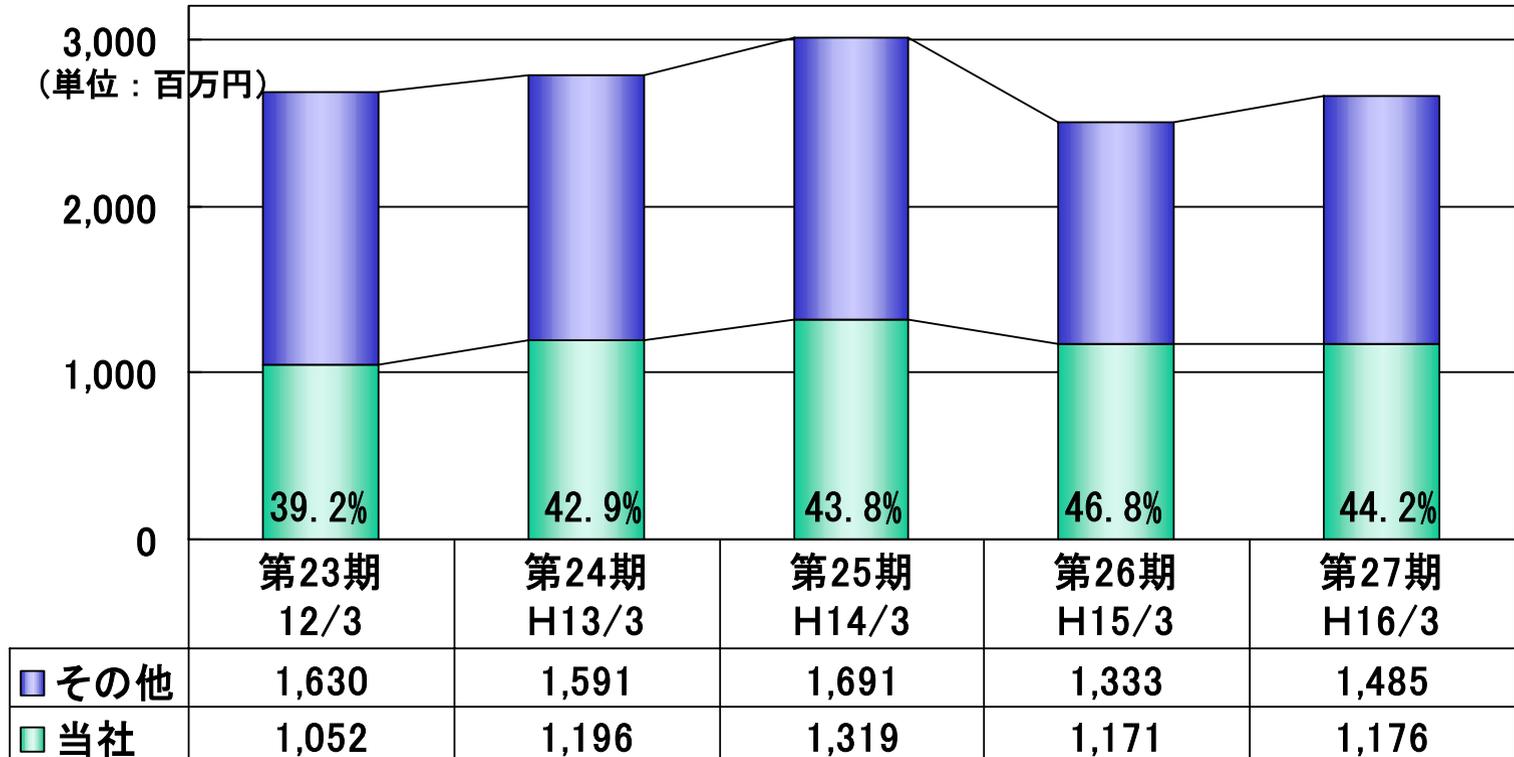


■ 研究開発費	1,860	1,951	1,963	2,337	2,741
— 売上高比率	10.9%	11.0%	10.6%	11.6%	12.2%
— 開発人員比率	40.9%	42.5%	43.6%	45.8%	48.6%

電子天びんの国内市場シェア



電子天びん市場シェアの推移～シェアNO1を維持～



多彩な機能が多様な用途と広範な市場を形成

微量精密測定・基準値に対する%表示・PC・プリンタとの接続・
 比重(密度)測定・個数計機能・動物計量
 ...etc